

女子生徒の運動・スポーツ離れに関する研究
 田中 花乃 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
 指導教員 佐藤 馨

キーワード：女子生徒.部活動.運動離れ

1. 緒言

近年、日本のスポーツ界では、女性選手の活躍が目立つようになった。2011年女子ワールドカップでは女子サッカーが初のメダルや2012年ロンドン五輪では女子バレーが28年ぶりに銅メダルと日本の女性アスリートの潜在的な競技能力の高さが実証された大会であった。以上のことからわかるように女性の活躍が多くみられ、わが国としては今後2020年東京オリンピックに向けて、女性選手を多く輩出していきたいところである。しかし日本の女性スポーツには様々な懸念がある。中でも女性スポーツの普及については早急に対応が望まれ、将来の女性アスリートとして期待される女子中高生の運動部離れが深刻化している(順天堂大学マルチサポート事業, 2013)。本研究は女子中高生の運動離れの原因を明らかにし、一人でも多く女性スポーツ人口を増やす為の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 研究方法

本研究は女子中学生 171 名、男子中学生 156 名、女子高校生 306 名、計 633 名に「スポーツ実施状況」「一般性セルフエフィカシー」についてのアンケート用紙を配布した。基本的には女子生徒を対象とするが分析の都合に応じて男子を加えて分析を行った。統計処理には SPSS Statistics19 (IBM) を用いて単純集計、T 検定とクロス集計による χ^2 検定を行った。

3. 結果および考察

本研究では以下のことがわかった。

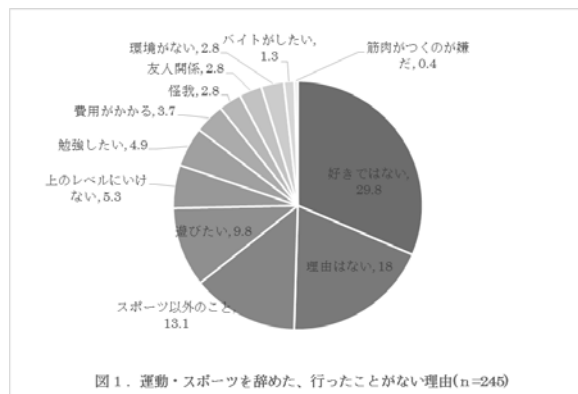
1) 14 歳～15 歳の中学から高校への進学時に運動・スポーツを辞める生徒が多い(表 1)。

表 1. 運動・スポーツを辞めた時期

| | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 |
|-----|-----|-----|------|-----|------|------|-----|
| (n) | 4 | 3 | 19 | 9 | 30 | 76 | 6 |
| (%) | 2.7 | 2 | 12.9 | 6.1 | 20.4 | 51.7 | 4.1 |

2) 運動・スポーツを辞めた、行ったことがない理由は「運動・スポーツが好きではない」と

いう回答が全体として最も多かった(図 1)。



3) 「運動・スポーツを行ったことがない」生徒が多く、その理由としても「運動・スポーツが好きではない」という回答が最も多かった。

4) 運動・スポーツをしている・していない人では自己効力感に対する差が大きく見られた(自信や積極性の項目において)。

5) 男子は女子に比べて運動・スポーツをしている人が多く、運動・スポーツが嫌いという人も少ない。高校生になっても続けようと考えている生徒が多い。

4. 結論

本研究で、女子は運動・スポーツを辞める人だけでなく運動・スポーツをしたことがないという人が多いことがわかった。女子の運動離れの原因として最も多かった回答は「運動嫌い」であった。運動嫌いの原因は幼少期や小学校での関心や配慮が重要となるであろう。また別の要因として、親の助言も関係してくるのではないだろうか。それに比べ男子はほとんどの人が一度は運動・スポーツの経験があり、今後も前向きに続けていくと回答した人が多く、女子とは大きな差が見られた。今後女性スポーツには、「運動嫌い」という重要課題に早急な対応が必要である。

引用・参考文献

順天堂大学 マルチサポート事業 (2013) 「女性アスリート 戦略的強化支援方策レポート エッセンス版」 1-16